

ふるさと奥尻通信

平成27年9月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

かつて、大手の甘い酒がもてはやされた時代、「地酒」は”地方の田舎くさい酒”というレッテルを貼られていた。地酒ブームが起きてすでに30年、もはや百花繚乱の活況をみせている。

特集 檜山の地酒-日本酒編-

奥尻町が所属する北海道檜山(ひやま)管内には7つの町があり、その中の4町で日本酒造りが行われています。今回は奥尻の酒のライバルとも言うべき銘柄をご紹介します。味わいのコメントは、今年のなべつる祭りに参加された、一般社団法人友醸広報・2015Miss SAKE北海道の藤村知世さんにお願しました。

・特別純米「奥尻」

平成26年度より奥尻島米岡地区で酒造好適米(酒米)「吟風」を1ヘクタール作付けし、島の最高峰神威山の天然水で仕込みました。26酒造年度は、4000リットル醸造して出荷。島内では4月下旬に大試飲会、5月初旬に店頭販売、6月1日より道南地方を中心に全道販売されました。初年度の売れ行きは好調で7月下旬には島内でも品薄となり、お盆の帰省時期を待たずして完売となりました。醸造は栗山町の小林酒造が行い、ラベルは一般公募されて、旭川市の書道団体理事の田中敏子さんの書が選ばれました。



「奥尻」初出荷 島内では5月初旬から店頭へ



今金町 純米吟醸「今金」

一般社団法人友醸広報 2015Miss SAKE北海道の藤村知世さん



奥尻町 特別純米「奥尻」

せたな町 純米「吟子物語」

コメント「みずみずしいグリーンの「奥尻」の二文字は、島で見た美しい海の色を思い出させてくれます。香りはほんのり華やか。一口含むと、お米と麴の甘みがスッと入ってくるのですが、味わおうとするとさっと消えていき、わずかに塩味を感じます…。島に吹く風のように、その味わいを確かめたくなくて、ついついお酒が進んでしまう…そんな日本酒です」酒米「吟風」、精米歩合60%、アルコール度15%、日本酒度+4、酸度1.6、協会9号酵母使用。

・純米吟醸「今金」

平成12年に酒米の試作を行い、初年度から不作になるなどの苦労を重ねて、同17年に誕生した地酒。同21年からは酒米を「彗星」に統一し、後志利別川の伏流水で仕込んでいます。製造は倶知安町の二世古酒造で行ったこだわりの一品です。

コメント「力強く筆字で書かれた「今金」のラベルからは、一見想像できないほどとてもフルーティな香り。味わいがしっかりしているながらも、口当たりは軽く、後味もすっきりしているので、女性にもとても飲みやすいタイプの日本酒です。今金産の酒米「彗星」と水を使用しているため、大地の力強さを感じます。味の濃いお料理やきのこや根菜を使った料理と合わせてもおいしいです」

・純米「吟子物語」

明治30年に瀬棚で開業した、荻野吟子にちなんだ酒。医療分野でも男尊女卑が目立った時代、荻野は女医第一号としてその道を開いた苦学の人です。有機栽培の「吟風」を低温でじっくりと醸した、辛口の純米酒。加水しない原酒や冬期限定の非加熱処理の生酒もあり、日本酒本来の風味が楽しめます。



なべつる祭りでも大好評！ 鎌田親ピンと藤村さん

☆檜山の地酒一覧☆

銘柄	区分	酒米	酒造会社
奥尻	特別純米	吟風	小林酒造
今金	純米吟醸	彗星	二世古酒造
万太郎	特別本醸造	彗星	二世古酒造
今金彗星	特別本醸造	彗星	二世古酒造
よしこ	特別純米	きらら397	酔仙酒造
吟子物語	純米	吟風	高橋酒造店
北の白虎	純米吟醸	ふっくりんこ	田中酒造
江差?	純米吟醸	吟風	六花酒造

☆地元の使用した近郊の地酒☆

函館奉行	純米吟醸	吟風	小西酒造
陣屋桜	特別純米	彗星	小林酒造
今宵八雲	純米吟醸	ほしのゆめ	斎弥酒造



昭和37年5月8日撮影。新盛丸と共進丸が春のホッケ巻網漁で島の西海岸美の歌沖を航行中、亀を捕獲して祝いの酒盛りをしています。春はホッケ漁の季節、昔は二艘の船でホッケの群れを囲い込んでから、タモですくって捕っていたので乗り子もたくさんいました。左から新谷清三、井田栄三郎、井田栄三、国友利夫、山下伝三、坂尻昭一、佐藤和美、佐藤和義さんです。酒瓶が3本見え、左端が「香蘭」、山下さんの左手と右端が「北の誉」です。香蘭は室蘭の老舗でしたが、この年に小樽の北の誉と合併し、北の誉香蘭(株)になりました。当時島で流通していた地酒なのでしょう。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。



さっぽろ狸小路グラフィティ 和田由美

かつて狸小路に編集事務所があったという筆者和田氏の思い出と青春と汗と涙ともろもろが詰まった狸小路の歴史ガイドブック。明治・大正・昭和・平成と時代は変わったが、時に札幌近郊の少年少女たちの憧れの街でもあり、オジサン、オバサンたちの憩いの場でもあった。ネオン街ススキノとは一味違うサッポロの街並みをご覧ください。

月刊 奥尻のつり 9月号

秋には島内の港にアジやサバ、イワシ、サヨリなどの群れが回遊してくるのが毎年の恒例となっています。それらの群れが来ないと、ただクサフグとたわむれてお終いですので、日によって釣果に差が出ています。群れが入り始めた頃が釣りやすく、話を聞きつけて釣り人が多く入り、騒ぎになってくる頃には全盛期を過ぎています。おっとり刀で出かける頃にはもう下火に。これは、釣られて群れが小さくなるのと、魚がまき餌に慣れて食いが悪くなることもその原因だろうと言われています。アジは丸ごとフライにすると美味しいのですが、大きいと骨が残って食べにくく、小さいとさばくのにかかりが手間がかかることになりまますので、ちょうど良い大きさの時に釣り上げるのがコツです。若干のズレはありますが9月中がオススメです。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より
略て清鳥だら鳥そ金る賊田も一持もし三そを日へ
い三賊。生賊鳥を。を谷手生った日の載記原
たののそ臭つ賊取鳥さ内伝懸てコら木生せ、稿
ん日つらくけつっはいのっ命くをも曜活るし用
だ諺か生な勉けてこた兵てだる負う日の。か紙
。はな臭って強勉強いり隊。人って潤の真文も四
へこいくてへ強強や洗さ。男。てに所剣の一十五
先れ夜な稼のんっん昨の皆く着にさ良ヶ五
生を、っごの、だてたも日子走るい。ださ月枚
の育時てう所へぞ一り今帰もっ人て。で。の
序て化行なにお。生し日っ、て、い目七は日書
文てのくし前こ懸てかて女手たを月な記か
。伸日ぞこ朝達れ命いらきの籠。さ二い全れ
中び、。れかこのに鳥た子。を。ま十。部た

しどり人た尻た各島へがて
た、ポ口こ島も地のう催日九
。興一減とがのの催日四
味ト少に初で離こよれ島日
深一論な開す島とよれ島日
いにをり催。で。しま嶼く
発対唱まの北開、とし学六
表すえす地日催毎はた会日
がるた。に本さ年離。奥に
続反一地選でれ全れ島か
き論増方ばはて国た嶼大
まな田のれ奥きの会



2年目も順調のようです

いに年並いか度わ九今だしし尻
にな目みま、はれ月期つたて一初
期りもとす今どま下のた。ほが年
待そ売のねかのし旬酒と初ほが度
さうりこ。らよたに米思年完好は
れな切と生氣う。はもい度売評奥
て予れで産にな二刈順まはしで
い感必ず量な味十り調す上て夏
まで至のはつに七取に。々しを地
すすので前てな酒り育さの待酒
。逸、年しる造がちて出いた一
大品二度まの年行、来まず奥

酒米「吟風」収穫

てたか変りダ最時のでとツ
つも形とス中。はは、散ア小
。け絶学並カ。ア中よ々ゲ学
。減生べルム学うおの生の
く小寸服たト一ラ二やどメの
さい遣前と店のズ一年かか頃
いで残ボビニクム春ビレだ狸
握つタツニクムスのみ。したら
しいなりずや真。した。なは
めん。らヒつ当たの「カ

心害害沖深を復芸光はに日の
構もの永め受興員協竹参本専九
えあ事良まけ事が会田加災修月
をる例部し、例出事前し害大二十
新中な島た。専や向務総しま復学六
た、ど噴。門取き局務した興にて
に災、火先家り組全長、奥東催京
し害発や般と組のみ。長、奥東催京
ま対生常発のみ。の稲佐尻京さ
し処中総生交のの稲佐尻京さ
たへの大し流紹災垣野か大れ
の。の災水たを介害学観ら会

日本災害復興学会参加記

今月の奥尻のお宝

観光記念のタバコのラベル 昭和61年